

損益分岐点分析の視点（4パターン）

損益分岐点分析の見方について、4つの象徴的な収益構造パターンを示して解説します。

OHPシートや手配りシートとして活用してください。

● インストラクション手順例

（解説例：1）のシートを参照しながら）

「損益分岐点図表の見方について、見てみましょう。」

ここに、4つのパターンがあります。それぞれ、相対的にどのような特徴があるといえるでしょうか。

（質問をなげかけるか、あるいは以下の解説を行う）

「A型について。これは、典型的な固定費型です。工場など、設備投資が大きい製造業、装置産業に多く見られるタイプです。固定費が大きいので、不況時に弱い一方、変動費が小さいので、好況時にはうま味が大きく、つまりスケールメリットが大きいといえます」。

「B型について。これは典型的な変動費型といえます。固定費を抱えずに、商品を転がして利ざやを稼ぐ、卸売業や商社に多いタイプです。固定費が小さいので不況時には強い一方、変動費が大きいので、好況時などでも、うま味は薄いといえます」。

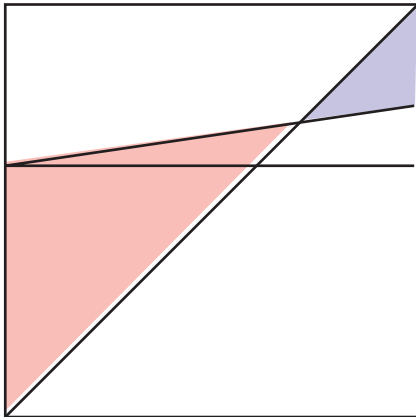
「C型について。固定費が小さく、変動費ともに小さい、収益構造としては理想的なタイプです」。

「D型について。C型とは全く逆に、固定費、変動費ともに大きい、経営の困難なタイプです」。

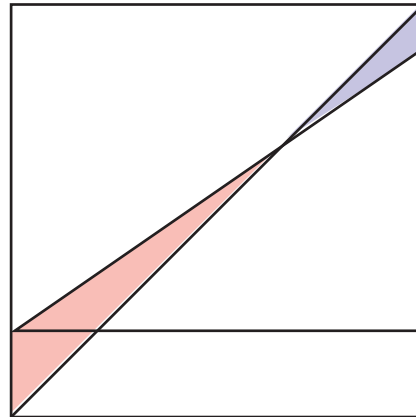
*必要に応じて、2)のシートも参照

■ 1) 損益分岐点の4パターン

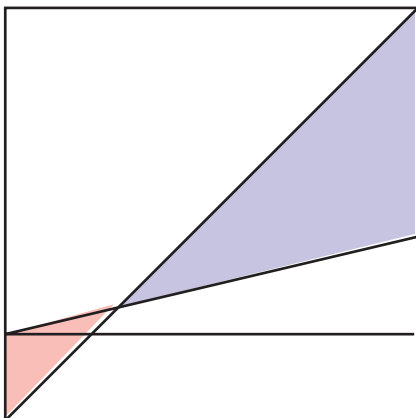
A型



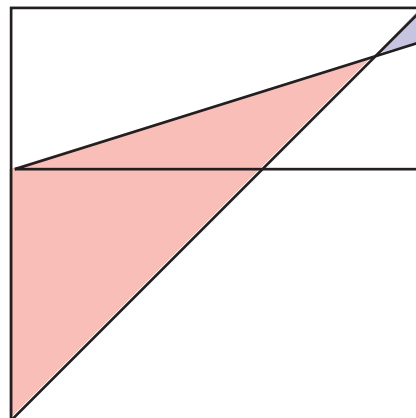
B型



C型



D型



■ 2) 損益分岐点の4パターン (図解)

